

4/1 始動 2020 世代

新学習指導要領

2020年度から始まる新たな学習指導要領。授業時数が大幅に増えるなか、児童や教師、小学校の現場はどう変わり、どんな課題があるのか。新たな学びを受け「2020世代」の始動を前に、現場から報告する。〈関連記事1面〉

「What would you like? (何にしますか)」
2月27日、東京都町田市立町田第五小の5年3組で行われた英語授業。指導要領の本格実施前のために教

学芸会やめ 英語授業

科書はないが、35人の児童は「お店屋さん」「お客さん」に分かれ、買い物での表現を学んでいた。

担任の並木崇行教諭(30)は、率先して英語を話す姿を児童に見せようと、同市が実施する研修会などに積極的に参加。この日は、ALT(外国語指導助手)がつかない1人の授業で、「机の向きを変えて」などの一言が出てこない。わずか45分の授業を終えると、喜々とする児童の傍らで額には汗がにじんでいた。

新教科 時間確保に苦心



身ぶり手ぶりを交え、一人で英語の授業を行う並木教諭(2月27日、東京都町田市の町田第五小で)

授業時数の捻出、授業の進め方、成績の付け方など課題は山積だ。

示板で共有。教員約30人は夕方の会議の冒頭、持ち回りで英語でスピーチを行っている。

「多忙」と指摘された。同小では、自宅にパソコンを持ち帰ることができるようになり、図工や音楽の専科教員を置き、現場の教員を支援している。五十嵐俊子校長は「英語が苦手な教員もまだ多いが、空いた時間を使って指導力をつけてほしい」と語る。

「夏休みを短くしたり土曜日を登校日にしたりせず、授業時間をしっかり確保できる。教職員の働き方改革にもつながる」と話す。

今回、読売新聞の74自治体調査では、夏休みを短縮するなどして、45分の通常授業を増やすところが多かったが、学校によっては5分を削って時間を捻出するところもある。

「夏休みを短くしたり土曜日を登校日にしたりせず、授業時間をしっかり確保できる。教職員の働き方改革にもつながる」と話す。

今年、読売新聞の74自治体調査では、夏休みを短縮するなどして、45分の通常授業を増やすところが多かったが、学校によっては5分を削って時間を捻出するところもある。

「夏休みを短くしたり土曜日を登校日にしたりせず、授業時間をしっかり確保できる。教職員の働き方改革にもつながる」と話す。

「夏休みを短くしたり土曜日を登校日にしたりせず、授業時間をしっかり確保できる。教職員の働き方改革にもつながる」と話す。

「夏休みを短くしたり土曜日を登校日にしたりせず、授業時間をしっかり確保できる。教職員の働き方改革にもつながる」と話す。

始動 2020 世代

新学習指導要領 田

ICT教育 地方心細く

教諭(4)は「専門的な知識がなくても大丈夫。先生も楽しみながら民間教材などを有効に使おう」と励ました。

新しい学習指導要領では、指導の中心や授業時間などの詳細な記述はなく、基本的に現場任せ。村教委には、専門的な観点から教員を指導する

度。子供向けプログラミングソフトでロボットを動かす授業や、コンピューターを使わずに課題を解決する道筋を考

えさせる指導法「アンプラグド方式」などを試してきた。中心となったのは、県内外

のプログラミング担当教諭らと情報交換や研究を重ねてき

「授業でタブレット端末にトラブルが発生したら対応できるだろうか」。不安を漏らす教員もいたが、プログラミング教育を担当する金沢重之

員も多く、端末の使い方などに苦手意識を抱きがちだ。

指導の中心や授業時間などの詳細な記述はなく、基本的に現場任せ。村教委には、専門的な観点から教員を指導する

度。子供向けプログラミングソフトでロボットを動かす授業や、コンピューターを使わずに課題を解決する道筋を考

えさせる指導法「アンプラグド方式」などを試してきた。中心となったのは、県内外

の進め方を話し合った。2月中旬、福島県中島村立潤津小の職員室に教員十数人が集まった。4月から必修化されるプログラミング教育

の進め方を話し合った。2月中旬、福島県中島村立潤津小の職員室に教員十数人が集まった。4月から必修化されるプログラミング教育

の進め方を話し合った。2月中旬、福島県中島村立潤津小の職員室に教員十数人が集まった。4月から必修化されるプログラミング教育

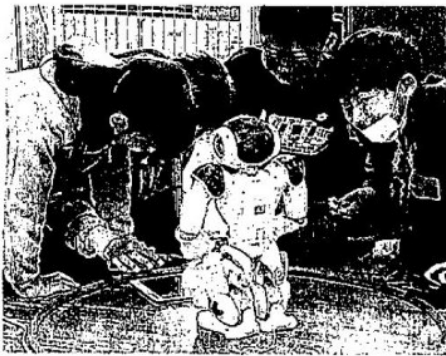
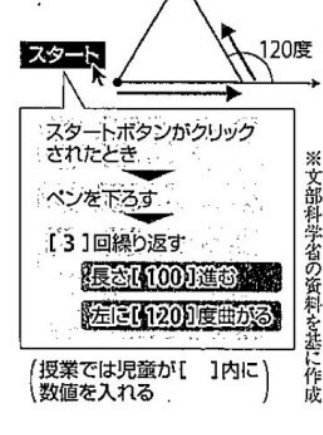
の進め方を話し合った。2月中旬、福島県中島村立潤津小の職員室に教員十数人が集まった。4月から必修化されるプログラミング教育

の進め方を話し合った。2月中旬、福島県中島村立潤津小の職員室に教員十数人が集まった。4月から必修化されるプログラミング教育

プログラミング教育 プログラミングの仕方などを学ぶだけでなく、コンピュータや命令の出し方、論理的な思考力を身に付ける。文部科学省では、5年算数の「正多角形の作図」や、6年理科の「電気の性質や働き」などを指導例として示している。

プログラミング教育で使われるプログラムの例(小5算数)

正三角形を正しく描くためのプログラム



タブレット端末を使いロボットを動かすプログラムを体験する児童たち(2月、福島県中島村の潤津小で)＝同小提供

た金沢教諭。金沢教諭頼みの現状に「どのように教えるべきか悩んでいる教員は多い。手探り状態でのスタートです」と室井博人校長の表情も曇りがちだ。

文部科学省の調査によると、昨年11月時点では、全国市区町村の1746教委のうち114教委(6.5%)で、最低限必要な指導体制の基礎が整っていないかった。各地の教委も頭を悩ませる。島根県出雲町教委は、教科化される英語などへの対応に追われ、プログラミングまで手が回らない」といい、千葉県長柄町教委は、「大学などと連携できれば情報やノウハウが入るかもしれないが、町内には大学や高校もない」という。

一方、福島県中島村の今年度予算の「教育費」は約2400万円にとどまる。渋谷区教委の担当者は「ICT教育にはお金も人も必要だと話す。政府は全小中学校に1人1台のパソコンなど情報端末を配備するGIGAスクール構想を打ち出すが、地域格差への懸念は払拭できていない。

21億500万円。東京都渋谷区が区立小中学校の児童生徒、教職員に1人1台、合計9000台近くのタブレット端末を用意するため今年度予算に計上した額だ。プログラ

始動 2020 世代

対話的学び 教育界に重責

新学習指導要領

海洋プラスチックごみの削減に向けて何ができるか。

「みんなで清掃ボランティアをする」「プラスチック製品を紙製品に変えればいい」「法律で規制しよう」。2月下旬、東京都世田谷区立烏山北小5年の社会科授業。33人の児童は、4、5人のグループに分かれて市民、企業、国の3者の立場から、アイデアを出し合った。

言いつ放しではなく、ゴミ拾いや企業の商品開発がどう削減につながるのか、効果や実現可能性まで掘り下げて話し合った。

環境保全をテーマにした全9回の授業の最終回。これまでの授業では、水俣病などの公害や水質汚濁への都の対策などを調べ、話し合ってきた。最終回は、



海洋プラスチックごみを減らす方策を話し合う児童たち(2月、東京都世田谷区の烏山北小学校で)

児童たちが「海洋プラスチックごみの問題は、国主体で解決してほしい。市民も協力し、少しずつでも改善することが大切」などの意見をまとめて締めくくった。

一連の授業は、同小の木村洋介・主任教諭(36)が昨秋から十数時間かけて、都内の小学校教員ら授業研究仲間十数人と構成

などを考えた。

新しい学習指導要領は、全科で、話し合いや調べ学習などで課題解決策を探る主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を旨とする。

ALは、学校や教員の力量に左右される。力のない教員では、単に意見を言い合うだけに終始しかねない。木村教諭は「全教

科で高い水準を実現するのは相当大変だ」と話す。

＊

経済協力開発機構(OECD)が昨年6月に公表した調査では、ALにも通じる「明らかかな解決策が存在しない課題を提示する」指導を「いつも」「しばしば」する日本の小学校教員は15・2%。参加15か国・地域で最低だった。専門性を高める「職能開発」にかけた時間も最も短く、1週間あたり0・7時間にとどまった。

首都圏のある自治体の教育長は「ALは高い指導力が求められるが、教員は多忙で指導力を磨く時間もとれない」と話す。欧米では、自ら考え、学ぶ姿勢を育む教育が幅広く行われている。

ロシア出身の大手広告会社員、キリーロバ・ナシジャさん(36)は、両親の転勤に伴い5か

国で小学生時代を過ごした。

米国では、教師が児童に積極的に質問し、意見が出る雰囲気を作り上げ、多くの授業で活発な議論が交わされた。フランスでも、児童同士の考え、議論を尊重していた。朝顔の育て方ですら、種をそのまま土に埋めるか、土に水をあげてから埋めるかを話し合い、自分の考えに沿って育てた。

数式や年号など知識の習得だけでなく、「児童が意見を言いやすいよう、先生が巧みに問いかける場面が多かった」と振り返る。

文部科学省は、効果的な指導方法をホームページで紹介するなどしているが、早稲田大の中博之教授(教育方法学)は、「授業改善が教員任せになってはいけない」と警告する。教委や学校全体の取り組みとして、好事例を積極的に取り入れるとともに、「多忙さを解消し、授業研究に時間が割けるよう教員を増やすべきだ」としている。(この連載は、新美舞、鯨井政紀、渡辺光彦が担当しました)

主体的・対話的で深い学び 環境問題など答えが一つだけでない課題について、解決策を考えたり、様々な分野の知識を結びつけて深く理解したりする学習。グループでの話し合いや討論、意見発表、調べ学習、専門家らへのインタビューなどの活動を通じて進める。